

だれもが受けられる教育を

三蔵子小・6 戸谷 羽那

今、わたしたちはふつうに学校に行って、友達とおしゃべりをし
て、当たり前のように教育を受けていますが、世の中には学校に行
けなかったり、教育を受けられなかったりする子がいます。

日本では、小中学校の九年間が義務教育とされており、すべての
子どもたちが、教育を受ける権利をもっています。

ですが、世界中には学校に通えない子たちが約一、三億人もいま
す。その中で、小学校に通えない子が六千九百万人もいます。

学校に通えない子どもたちの約半分が、紛争や戦争、災害の影響
を受けている場所に暮らしています。

教育を受けることは、子どもたちが未来への希望をつなぐことで
す。特に貧しい暮らしをしている子どもたちにとっては、教育
を受けることが、安定した収入のある仕事につけるチャンスにつな
がります。

SDGsの四番の目標は、二〇三〇年までに「すべての若者及び
大多数の成人が、読み書きの能力及び基本的計算能力身に付けられ
るようにする」「すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的
な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等
教育を修了できるようにする」とだれもが教育を受けられるように
すると示されています。

世界では、男子に比べて女子は教育を受けられる機会が少ないと

いう問題があります。最近では、これまでの取り組みで小学校などの
初等教育では、男女が少しずつ平等に教育を受けることができるよ
うになってきました。しかし、男女という性別の違いだけではなく、
経済力の差や少数民族、障がい者という社会的に立場が弱い人も平
等に教育を受けられる社会を目指すことが大切です。

どうして教育を受けることができない子がいるのかと調べていく
と、先生が足りない、お金に余裕がない、親が学校に行かせてくれ
ない、病気をしている、戦争や紛争があるなどの理由がありました。

今、世界では無料で教育を受けられる施設が作られていたり、コ
ンビニエンスストアなどのお店には世界中の貧しい人たちへの募金
箱が置かれたりしています。

そこで、わたしたちにできることを考えました。コンビニエンス
ストアなどにある募金箱に募金をすること。将来、教育を受けられ
ない子たちが勉強できるように、もっと教師を増やすために、教育
を受けられるわたしたちが今度は教えられるようにすること。教育
を受けられる子が少しでも増えたらいいと思います。

世の中には、まだまだ教育を受けられない子や差別されている子
がたくさんいます。わたしたちは「めんどくさい」と思えるほど、
学校に通えています。しかし、世界にはこんなにも学校に通えない
子たちがいるんだと知ってから、あまり学校に行くことが「めんど
くさい」と思うことが減り、毎朝寒い外を歩きながら登校していま
す。毎日楽しく学校に行けること、障がいのある子がみんなと同じ
ように勉強できることは当たり前ではないということをみんなに知
ってほしいです。わたしたちを学校に通わせてくれる国や家族、命
に感謝したいです。